

# Hello! 先端研究



金丸和正助教

多くの入念を悩ませて  
いるアトピー性皮膚炎。  
金丸和正助教(医学医療  
系)と渋谷彰教授(生存  
ダイナミクス研究セン  
ター)らは、ダニによっ  
て引き起こされるアト  
ピー性皮膚炎を抑制する  
分子を世界で初めて発見  
した。副作用が少なく患  
者への負担の少ない治療  
の開発が期待される。  
アトピー性皮膚炎は慢

性的な皮膚病で、かゆみ  
を伴う湿疹が良くなった  
り悪くなったりを繰り返  
す。患者は、外部の刺激  
や乾燥から体の内部を保  
護する皮膚のバリア機能  
が低下しており、アレル  
ゲンなどが体の内部に入  
りやすい。これが免疫細  
胞と結びついてアレルギー  
性の炎症が起る。  
ダニは代表的なアレル  
ゲンだが、ダニによるア  
トピー性皮膚炎の発症メ  
カニズムは十分に解明さ  
れていなかった。  
金丸助教らは、通常の  
環境で飼育するとアト

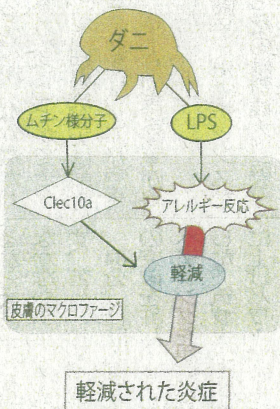
## ダニによるアトピーを抑制

## 副作用少ない治療を目指す

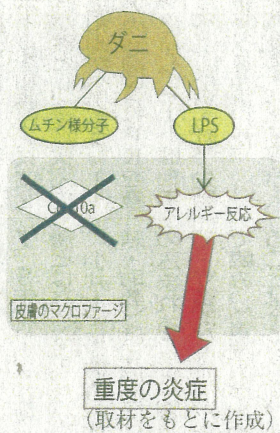
ニによるアトピー性皮膚  
炎を抑制する働きを持つ  
ことが分かった。  
更に詳細な解析で、ダ  
ニには、アトピー性皮膚  
炎を誘導するLPS(エン  
ドトキシン)と、Cie  
c10aの働きを活性化  
して皮膚炎を抑えるムチ

ン様分子という種類の  
成分が含まれていること  
が明らかになった。  
アトピー性皮膚炎を発  
症したマウスの体表にム  
チン様分子を直接塗った  
ところ、Cie c10aが  
活性化し、皮膚炎の症状  
が改善した。

Clec10aを持つマウスの皮膚



Clec10aを持たないマウスの皮膚



ため、他の感染症にかか  
りやすくなるなどの副作  
用がある。  
この研究が進み、人体  
への応用が可能となれ  
ば、より効果的で副作用  
も少ない治療薬の開発に

つながる。金丸助教は「新  
たな治療薬の開発につな  
がる研究を進めること  
で、人の役に立っていき  
たい」と語る。(川久保  
悠平 社会学類1年)

(取材をもとに作成)